

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長目標

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

プログラム

- 本日

来賓卓話	留萌振興局保健環境部長	会員誕生日
	留萌保健所長 堀 幹典様	3月12日 原谷修次郎
- 次週予定

来賓卓話	日本ハムファイターズ留萌後援会 会長 高橋 雄輔様
------	---------------------------

No. 2549

第33回 3月6日

出席報告

前例会

会員総数	42名
出免会員	10名
出免出席	10名
基準会員出席	32名
出席率	100.00%

前々回

第30回 2月13日

欠席会員	12名
内メイクアップ	6名
修正出席率	78.94%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

会長報告

1. 2月23日(土)に、国際ロータリー第2510地区第1グループ会長幹事会が留萌にて開催されました。内容は各クラブの上半期の活動報告と、1月26日に開催されたガバナー補佐会議の報告、そして今年5月に開催するIMについて話し合いました。

ニコニコBOX

- ・還暦を迎えました 行徳会員
- ・私の不注意で皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました 本日退院致しましたが、杖歩行なのでリハビリに励み早く例会に出席出来るようにがんばります 田中会員
- ・良い事がありました 関野会員

幹事報告

- ・芦別RCより例会案内を受領しました。
- ・そらぶちキッズキャンプから施設完成のお知らせと、会員募集と支援の要請が届いております。回覧いたします。

前回	501,200円
今回	25,000円
累計	<u>526,200円</u>



プログラム……………

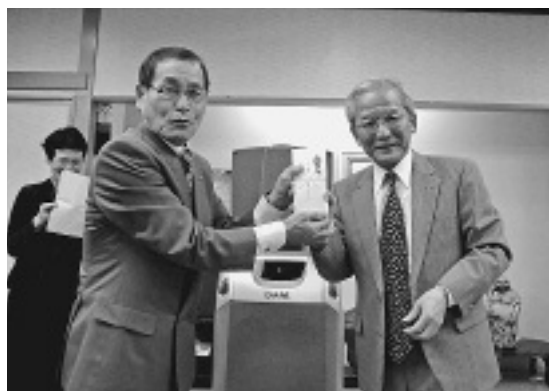
創立52周年記念夜間例会



委員長対抗
カラオケ歌合戦

- | | | | |
|-----|----|----|----|
| 優勝 | 関野 | 政人 | 会員 |
| 準優勝 | 対馬 | 健一 | 会員 |
| 第3位 | 堀 | 光輝 | 会員 |
| 特別賞 | 森 | 俊二 | 会員 |

WEEKLY REPORT



ロータリー始まりの日

それは、1905（明治38）年2月23日である。この頃は、自動車がよくやく実用化の段階に入ったばかりで、まだ馬車の方が巾をきかしており、飛行機もそれより約1年ばかり前、ライト兄弟によって発明されていたが、ほんの2～3分間空に浮かぶことができるという程度であった。（日本で云えば、日露戦役の終わった年にあたる）

この年の2月23日の晩、米国イリノイ州のシカゴで4人の人がデアボーン街にあるユニティ・ビルの711号室に集まった。4人というのは、弁護士のポール・P・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスタバス E. ローア、洋服商のハイラム・ショーレーである。“ガス” ローアの事務所であるこの部屋は狭く、机が1つとあまり掛け心地のよくない椅子が四つおかれているほか、隣に洋服掛けがあり、壁には写真が1～2枚と工事関係の図表がかかっている。当時ありふれた事務所であったようだ。4人は、ポール・ハリスが過去5年の間あためてきたアイデアについて語り合った。簡単に云うと、お互いの事業あるいは職業上の結びつきを通じて、友好的交友関係を築くことができるはずであり、またそうすべきであるというのである。仕事の上での関係が、友情の妨げとなることはない、ポールは考えたのである。

上記の文章は、「国際ロータリー・広報提供」として『ロータリーの友』1969年2月号に掲載された「ロータリーの始まった日」というタイトルの記事の冒頭です。ポール・ハリスが若いころ、5年の予定で放浪生活をしていたことは、ご存じの方も多いと思います。予定の5年に、3か月を残していたころ、弁護士事務所を聞かされたためにシカゴにやってきた、と『MY ROAD TO ROTARY（ロータリーへの私の道）』には書かれています。

しかし、喧騒とした大都会で、彼は孤独を感じていました。そんな時、ポール・ハリスは、ある経験を経験します。そして、その経験が、ロータリーをつくるきっかけになりました。「ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するので、これを見ていて私

は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業からひとりずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれぬものだろうか、ということでした。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはず」と、前出の『MY ROAD TO ROTARY』に書かれています。

1905年2月23日。ロータリーの会合が初めて開かれたこの日、その会合の前に、ポール・ハリスは、シルベスター・シールと夕食を共にしています。『奉仕の世紀』には、「その日の午後遅く、ポールとシルベスターはマダム・ガリのレストランで夕食を共にし、親睦とビジネスを推進するクラブという構想について話し合った。（中略）夕食後、ポールとシルベスターはデアボーン・ストリート127番地のユニティ・ビル7階にあるローアの事務所まで歩いて行った」と、書かれています。

ところでこの時、二人は何を食べたのでしょうか。この質問に対する答えは、ここには書かれていませんが、『The National Rotarian』（『The Rotarian』の前身）1912年3月号に見ることができます。その中でポール・ハリスは「私は、シールと私がマダム・ガリの店に行き、スバゲティ・ディナーを食べたのをよく覚えています」と述べています。

皆さまも、二人のように、スバゲティを食べながら、ロータリーについて語り合ってみてはいかがでしょうか。

編集長 二神 典子



ロータリー100周年を記念して、最初の会合が開かれたビルの跡地に設置されたプレート